展示古書籍紹介

期　昭和五十九年七月二日～七月二〇日
於　図書館三階閲覧室（本館）

中世説話集

説話とは、字の示す通り、「話すこと」「ものがたること」であるが、一般には、神話、伝説、昔話などの総称である。説話文学は、広義には、上代の叙事文学などその中に、説話を含むすべてのものを指すが、狭義には、多くの説話を収集した説話集のことである。

今回は、平安末期から鎌倉期にかけて成立した、叙事的・寓話的・伝奇的・宗教的・庶民的な説話集である、今昔物語集、宝物集、沙石集などを紹介したい。

(1)
今昔物語集
写本十五冊（三十一巻中二～十、十七～二十二欠）（黒川文庫）
平仮名文　奥書なし　朝田家蔵書、福田文庫蔵印あり　美濃判　十行書き
全三十一巻（うち巻八・十八・二十一欠）、作者未詳の説話集で、書名の由来は、「今は昔」に始まり、「となむ語り伝へたるとや」で終る説話様式から、つけられたという。巻一～五が天竺（インド）、六～十が震旦（中国）、十一～三十一が世俗の説話に分けられ、話数約一千百有余と、量も厖大である。世俗部には民間説話として、文学的価値の高いものが多いといわれる。

(2)
撰集抄
版本六冊（三巻各上、下）　半紙判　絵入　（常磐松文庫）　文化七年（一八一〇）　大坂
奥田弥助板　外題「絵入再刻西行撰集抄」
古来より西行作といわれるが、未詳。巻数は、九品浄土に準じ、全九巻、華厳経の八十随好に擬して、八十条とする。発心談、遁世談、往生談が大部分で、仏教思想の影響のつよい説話集である。（黒川文庫）

(3)
宝物集
平康頼記
版本七冊　美濃判　九行書き　元禄六年（一六九三）　京都　梅村三郎兵衛板
一巻本・二巻本・三巻本・六巻本・七巻本・九巻本と諸本により広略がある。
平康頼が帰洛した治承三年（一一七九）頃の成立といわれる。仏教説話が、ほとんどであるが、編者の主観的批評意識が強く、単なる説話の羅列でないところが特色である。（常磐松文庫）

(4)
沙石集
無住著
版本十冊　美濃判　十二行書き　漢字片仮名混り文　「元和二年（一六一六）刊」の復刻本
無住が、弘安二年（一二七九）に起稿し、その後しばらく放置し、弘安六年（一二八三）再び書きついで、脱稿したと、「序文」及び「識語」にある。
全十巻中、五巻までは、あまり異同はないが、六巻以後、諸本により異同が多い。内容は、主に仏教説話であるが、種々の滑稽譚や猥雑な話に異彩があり、後世の笑話の祖ともなるものが数多くある。

○　朝田家蔵書（岸本由豆流蔵印）
○　福田文庫（福田敬園蔵印）
○　酒井忠固蔵書印

朝田家蔵書
福田文庫
酒井忠固蔵書
昭.7.3